昔時ノ河脈及ヒ其變狀ノ因

第三十六章　夫レ河流ハ古今一轍ノ者ニアラス大ニ變化セシコト爰ニ所說ノ如シ抑歷史又ハ許多格別ノ事ニ就テハ審確ナラサル者アリト雖和蘭ノ水勢ニ至テハ頗ル變化ヲ生セシコト慥ニ穿鑿スルヲ得此變化ノ間自然ニ由テ來ル者ト其缺乏及ヒ漲水流氷ノ危險ヲ避クルヲ計リ人力ヲ以テ致ス者ト相混スルカ故ニ河流昔時ノ形質歷史ニ據テ其實ヲ搜ルヲ得ヘキ者ハ能ク之ヲ穿鑿スルヲ緊要トス

河流上古ノ狀勢ニ就テ種々ノ說アリ其由テ起ル處ノ根據ヲ考量搜索スルコトハ遙ニ之ヲ遠サクヘシ是素ヨリ我黨ノ力ヲ勞スヘキ處ニア

ラス只和蘭河流及ヒ古代ニ係ル些少ノ件々ニ一二ノ確據アルノミ又學者ノ穿鑿頗ル精密ナルモ尚只此臆斷彼ヨリモ多少實ニ近キヲ顯ハスニ足レルノミ抑和蘭古代ノ歷史ニ係ル處ノ事ハ悉ク羅馬人ノ書籍ニ就テ搜索セサルヘカラス之ニ由テ觀ルトキハ彼是穿鑿ノ功少キモ大ニ恪ルニ足ル者無シ其羅瑪ノ史ニ據ルヘキノ故ハ其頃ノ和蘭人ハ歷史ヲ録スルノ業未開ケサリシニ由ルナリ他國ニ在テハ古代歷史ノ傳來慥カナラサル事ハ地理ニ由テ能ク辨明ス和蘭本國ニ於テハ然ラス斯ク怖ルヘキ變化ヲ受ケ恰モ水陸交々變換セシ者ナレハ其上古ノ形質ハ只此地方ノ羅瑪戰爭ニ係ル某歷史ニ據テ推量スヘキノミ

第三十七章　大ニ此地天然ノ形狀ヲ傷ヒル大變事ノ内紀元前百十年

十一年開化天皇四十七年八年庚午辛未「シムブリ」ノ洪水ハ最大現著ナリ「シムブリ」ハ其頃北是耳蘭ノ住人ニシテ有名ノ者ナリ是其頃ノ大洪水ナルヲ以テ其名ヲ用ユル者歟大「ブリッテーン」ノ地之ニ由テ陸地ヨリ分裂シ方今佛英ノ間ノ海峽ヲ生セリト云フ是此變ノ最タリ此變事ハ自カラ和蘭ノ海濱ニ海潮ノ高低大變化ヲ致サヽルヲ得ス但シ其以前ハ「スコットラント」ノ北濱ニ沿フノ外ハ「アタラ」海ト北海ト近ク相連ルナリシヲ此海峽ニ由テ潮流北海ノ方ニ通ツル捷路ヲ開キシ故ナリ

第三十八章　羅瑪ノ歷史家ニ據ルニ「レイン」河ハ上古已ニ「シケンケンシカンス」ノ邊「バタヒーレン」島ノ上部ニテ兩派ニ分レ其右即北派ハ海ト合スルニ至ルマテ其名及ヒ流レノ速力ヲ存シ左派ハ土人之ヲ「ワール」ト名ケタリ其床濶大其流緩慢ニシテ低ク「マース」河ニ連リシニヨリ又其名ヲ得タリシナリ「ワール」トイフ語ノ本義ハ海港ニ船ヲ圍ヒテ安穩ナラシムル場所

ヲイフ但シ此名ヲ下スハ其狀圍船場ニ似タルノ因アル歟而シテ至濶ノ口ヲ以テ方今ノ「ホールン」ノ地ト「ホルランド」ノ隅トノ間ヲ經テ海ニ達セリ但シ甲ハ「ゼルマニー」ニ沿フテ流レ乙ハ「ガルリー」ニ沿フテ流レシモノナリ

「レイン」河ノ右派ハ其下流ノ方向及ヒ其吐口ノ地位ニ就テ常ニ種々ノ說アリテ始終一定セス昔年ハ其上古ノ方向「ヂュルステーデ」ノ「ウイーキ」市邑ノ隅ニ至ルマテハ全ク方今ノ「チーデルレーン」ノ方向ト一轍ニシテ夫ヨリ「ウトレクト、レーデン、カトウイーキ」ニ沿フテ海ニ至ルマテ「コロムメン、オウデン、レイン」屈曲セル古レイン」ノ脈ニ隨ヒシ者トスルコト凡常ノ說ナリ後年ニ至リ「スヴルト」氏其「カトウイーグセ、レイン」「カトウイーキ」ノ「レイン」河ノ在ルヘキ理ナキヲ主張シ（歷史又究理ノ確說等「アムステルダム」千八百二十二年）而シテ古「レイン」右派ノ方向ハ「ゲルデル」ノ谷ヲ歷テ多ク「フレオ」即方今ノ南海ノ方ニ向ヒシコト尤疑無キニ似タリトス地質學ニ於テハ「ゲルデル」ノ谷ノ地質以前「レイン」ノ河床ヲ爲スモノニアラサルノ異論「ドルウ、セ、ハ、スタリン」和蘭ノ土地アリト見ユレトモ前說ハ頗ル熟達ノ徒ニ益ヲ爲セリ又全地方ノ位置ノ低キト歷史家ノ之ニ就テ記セシ處トヲ併セテ「レイン」河ハ北方ノ主派及ヒ「ワール」河ヲ除クノ外數條ノ派ヲ爲セシコト最疑無キニ似タリ其「ウトレクト」及ヒ「レイデン」ニ沿フ處ノ「レイン」河即所謂「カトウェーキ」ノ「レイン」河ハ恐ラクハ其大ナル者ノ一ニシテ夫ヨリ復タ「ヘフト、アムステル、ゴーウ」ノ如キ數多ノ小派ヲ生セシ者ナリ

第三十九章　「レイン」ノ左派即「ワール」河ノ上古ノ流脈ト「マース」

河ノ上古ノ流脈トニハ異說少シ大概「マース」河ハ其口ニ近ツクマテ全ク「ワール」ト混セサリシモノトス而シテ其口ニ至テ始メテ「ワール」河ヲ併セ之ト共ニ頗濶大ノ口ヲ經テ方今ノ「ホールン」ノ地ト「ホルランド」ノ隅トノ間ニテ海ニ入リシコト上ニ已ニ所論ノコトシ「タシチュス」氏此河口ヲ名ケテ「オス、イムメンシュム」ト稱セリ此語測ル可ラサル義ナリ其形容ニ由ルモノ歟然レトモ方今ハ此口多分砂ニ埋マリテ其頃ノ吐口ト符合スル少シ

「マース」河ハ和蘭ノ境域ヲ通過スルニ至テ「ボツクホーヘン」村ノ下ニ至ルマテハ只僅ニ屈曲ノ變化ヲ爲セシノミ其上古ノ流脈ヲ存セシト見ユ但シ上古ハ「ホールシ」ノ溝渠(カナール)又「スト、アントリース」ノ溝渠ヲ以テ「ワール」河ト相通スル無シ

此河往昔ハ「ボックホーヘン」ノ下ヨリ「マース」ト唱フル地面及ヒ「ラングスタラートセヘンド」ヲ經テ「ヘウスデン」市ノ南ニ向ヒ「ゲールトロイデンベルグ」ニ至テ北ニ向ヒ「ベルグセヘルド」及ヒ「ドルドレクト」島(エイランド)ヲ通リ「マスダム」及ヒ「ウェストマース」ニ沿フテ「ストレーン」ノ地ヲ過キ終ニ「ベールランド」及ヒ「ビツテン」ノ地ヲ經テ「ゲールフリート」ニ至リ此ニ於テ「ワール」河ト合シ濶大ナル口ヲ以テ北海ニ出ツ

第四十章　和蘭河流ノ變化及ヒ敗壞ハ多ク羅瑪人ノ致ス處ナリ則其所搆ノ巨大ナル要害ニ由リ又ハ和蘭ノ古人等其羅瑪人ヲ防ク爲メニ設クル要害ニ由リテ悉ク元來ノ形容ヲ變セシメシモノ也

此要害中第一ニ算フヘキモノハ「レイン」右沿ニ横隄ヲ築キ而シテ南

ノ方ノ陸ヲ越シテ「レイン」ノ水ヲ「ワール」河ニ行ランカ爲メ此横隄ニ對セル南側ノ隄ヲ堀破リシコトナリ是「クラウヂュース、シウヰリス」「バタヒーレン」ノ人トイヘル大將「バタヒーレン」ノ島ニアル「エキサンテン」ニテ敗軍ノ後引退キテ島ノ一部ニ水ヲ溢ラシ以テ羅馬人ヲ防クカ爲メニ斯ル變化ヲ爲セシモノ也

此隄ヲ搆ヒシ所ハ或人ノ考ヘニ據レハ「スワムメルダム」ニ在リシナラントイヒ又大概ハ「ヂュールステーデ」ノ「ウイーキ」ノ下ニ在リシナラントイヒ判然ト定メカタシ然レトモ「スワルト」氏ハ必「レイン」右派ニ於テ「タフルベルフ」ト「ワーヘニンゲン」トノ間ニ尋ヌヘキコトヽ決定セリ後年ノ歷史ニ此「レイン」北流ハ開濶自由ニ南海ト相通セリト記スヲ以テ考レハ此隄ハ後ニ復タ取拂ヒシモノト見ヘタリ第

九期（八百一年ヨリ九百年ノ間ヲ云フ）ノ始メニ至リ「ノールマン」（北境ノ人ヲイフ）此道ヨリ船ヲ以テ内地ニ入リ終始要品ヲ奪去リシニ仍テ第九期ノ末ニ至リ其入來ルヲ防ク爲ニ「ワーヘニンゲン」ト「タフルベルフ」トノ間ニ隄ヲ築テ再ヒ「レイン」ノ北流ヲ塞キシト見ヘタリ

第二ニハ「レイン」河ヲ方今古（オルデ）「イースセル」ト唱フル小河ニ連（ツラ）テ「レイン」河ヲ轉セシ一件ナリ之ニ由テ方今ノ「イースセル」ハ「レイン」ノ一流ヲ爲セシナリ其連結ハ「ヂロ、クラウヂュース、ダリュスュス」（羅馬ノ人）ノ堀ラシメタル溝渠ニ由テ紀元前十年（垂仁天皇二十年）ニ成リシ處トス然レトモ此新（ニヤー）「イースセル」河ノ方向「ウュストル」フォールト」ト「ヅースビュルフ」トノ間ニテ屈曲ノ太シキヲ見レハ是全ク人力ヲ以テ造リシモノヤ否疑フヘキ處アリ然レハ此堀溝ハ元來所在ノ川ヲ浚ヒテ

更ニ「レイン」トノ通ヒヲ開キシモノヽコトシ且加之或人ノ説ニ「イースセル」ハ「レイン」河ノ主派即右支ナラントイフ是羅瑪歴史家カ説ク處ナリ而シテ又或人ニ據レハ是「カトウィーキ」ニ沿フテ流レシモノナラントス然レトモ「スヴルト」ノ説ニハ「ゲルデル」ノ谷ニ就テ流レシモノナラントイフ則上ニ所舉ノ如シ土地ノ性質ハ就中廣袤平面ノ粘土ニシテ往昔「レイン」ノ「泓古」「イースセル」ノ谷ヲ通過セシコト疑無ナキニ似タリ(「スタリング」著ス和蘭土地論)古「イースセル」ハ未タ「ダリュシュス」溝ヲ以テ連接セサリシ前モ亦其大ニ「ボヘン、レイン」ノ水ヲ送ルヲ助ケシコト分明ナリトイヘトモ是常時然ルニアラス苟シクモ水ノ高キトキニ在テノミ尚「レース」ノ上ナル「レイン」ノ右隄ノ破敗毎ニ此路ノ水ヲ放下スルニ協フヘキ如何ヲ目

擊ス

第三ニハ「ドミチウス、コルブロ」人名ノ溝渠ヲ以テ羅瑪人ノ「レイン」右派ニ造レル第二ノ放水ナリ此溝渠以前ハ皆「ヂュールステーデ」ノ「ヴイーキ」ニ(其所方今ノ河名「レイン」ヲ「レイキ」ト換ユ)始マリ夫ヨリ「マース」河ニ貫キシモノナラントス然シ「スヴルト」氏ハ此始マル處「レイン」右泓ノ「ターフルベルフ」ノ邊ニ在リト定ム又恐ラクハ爰ニ已ニ所在ノ一條小河ヲ大河ト通セシメシナラン歟若然ラサルモ其溝ノ甚長大ナルヲ以テ諸人ヲシ此考ニ傾カシム且新ニ之ヲ造ルトキハ斯ル迂路ヲ取ラス極メテ迅捷ヲ計ルヘキノ理ナリ

第四十一章　一時ノ要旨又異常ノ願望ニ由テ後來ノ思慮算籌モ無ク或ハ塞キ又ハ左右ニ決リテ其原ヲ傷ヘシコト上ニ述フル如クナルニ

ヨリ終ニ天然ニ障ハラサルヲ得ス此ニ於テ元來ノ川流漸ク其速サ深サ水ヲ放下スルノ勢等ニ大害ヲ生シ以テ「ワール」河ノ速サ及ヒ勢ヒヲ增加セシニ至レリ

第四十二章　羅瑪ノ時代マテハ「ワール、マース」ノ二河ハ大海ノ近クニ至テ連合スルノ外敢テ互ニ相關ルコトナカリシコト上ニ所述ノコトシ然レトモ「ドレウメル」ト「ロスシユム」トノ間今尙隄ヲ搆ヘサル外野ヲ歷テ「ホールン」ノ溝渠及ヒ「ヘールワールト」ノ溝渠（是但シ千七百二十八年享保十三年戊申ニ隄ヲ築ケリ）幷ニ「スト、アンドリーム」ノ孔（カット）ニ由テ此兩河數百年來已ニ相通セリ千八百五十六年安政三年丙辰三月八日マヲハ其「アンドリース」ノ孔ニ由テ「ワール」ノ水「マース」ニ落チ或「マース」ノ水「ワール」ニ入リシナリ（此孔ノ閉塞ノ事ハ千八百五十三年嘉永六年癸丑ニ決定シ千八百五十四年安政元年甲寅ニ業ヲ興シ千八百五十六年ニ成就ス下ニ舉ル改正ノ手段ヲ見ルヘシ）此會通ハ何レノ時ニ生セシヤ天然歟又人工歟若人工ナルトキハ何等ノ目的ヲ以テ斯ル事ヲ爲セシヤ審カナラス初ニ舉ル兩溝ノ痕ハ已ニ第九期ノ末（八百七十年貞觀十二年庚寅）ニ在リシ處ナリ

「マース」ト「ワール」トノ間ニ尙他ノ會通アリ所謂「ニューマース」ニ沿フテ「ボツクホーヘン」ヨリ「ウオードリセム」ノ方ニ連ルモノ是ナリ但シ絶テ其起原ヲ記スルモノヲ見ス然レトモ是「スト、アンドリース」ノ連合ノ如ク已ニ第九期ノ末ヨリ前ニ成ル處トス蓋シ其本國ノ歷史「ワヘナール」氏著ス處八百七十年ノ圖ニモ之ヲ示セルヲ以テ其証トス

「ニューマース」ノ堀割ノ一事ハ人力ノ爲ス處トハ信シカタキノ理アルコト尚「ダリェシュス」溝ニ過キタリ蓋シ爰ニ一條ノ細流或窪地アリテ「マース」河ノ砂土堆積又ハ閉冰ノ如キ自然ノ因由ニテ此ニ路ヲ開キシモノトス又恐クハ我黨ノ知ルヘカラサル目的ヲ以テ之レニ導キシモノナル歟

第四十三章　此河流會通ノ果ハ殊ニ「ヘウスデン、ランダスタラート セヘルド」等ノ地ヲ經ル古「マース」河ノ古床ニ漸々損害ヲ加フルノ外寸補ナク砂土此處ニ堆積シテ之ヲ乾涸シ以テ全ク此流ヲ傷ヒ終ニ廢物ト成リ「ヘウスデン」市ノ上ニテ壅塞セラレ「ボーヘンマース」ノ水ヲ放下スルノ用ヲ爲サヽルニ至レリ但此壅塞ノ時日ハ判然ナラス此流ノ一部「ダールトロイデンベルグ」ノ近傍「ベルグセヘルト」ニイツルモノハ方今「オウデマーシー」ノ名ヲ以テ通知セル處ニシテ已ニ上ニ述ルカコトシ

第四十四章　千四百二十一年（應永二十八年辛丑）十一月十八日ノ「スト、エリサベツツフルード」（洪水ノ名「エリサベツツ」ハ人名其時代ノ名ヲ用チュルモノ歟）ハ「ソイドホルランドセヒールド」（南和蘭ノ圍地）ヲ浸セシ者ニシテ終ニ又「ヒール、チーデルマース」兩河且「子ーデルレイン」河及ヒ「イースセル」河ニ怖ルヘキ變化ヲ生セリ

千八百二十二年（文政五年壬午）「ドルドレクト」ニテ「ヤン、スミッツ」ノ論スル處ニ據ルニ「ソイドルホルランドセヒールド」ノ大サハ凡ソ五万「モルヘン」（「モルヘン」ハ「エル」平方一万個）アリ而シテ是「ストレイン」ノ地ノ一部「ドルドレクト」島「ビースボス」「ベルクセヘルト」「ヘウスデン」及ヒ「ア

ルテナ」ノ地面「ランクスタラートセヘルド」「ゲールトロイデンベルク」ノ西ノ地方「セイヘンベルゲン」ニ至ルマテノ者ヲ含メリ又其頃ハ「クリユンドルト」及ヒ「ヘインアールト」ノ兩小島「メーレン」ト稱セル大海灣ノ内ニアリシ也此圍地ハ周圍ニ隄ヲ繞ラシ其隄「メルウェーデ」河及ヒ「マース」河ニ沿ヒ幷ニ西邊ハ海ニ對シ且南邊ノ一部ハ「ヘヂックホイセン」ヨリ「トンゲン」ニ至ルマテ「ヘーデイキ」隄ノ名ヲ搆ヒタリ但シ此隄ハ「ソイドホルランドセワールド」ヲシテ分レ來ル「ヘーワートル」濁リ來ル水脈ノ過剩ヲ免レシムルノ外他ノ目的アルナシ「マース」河ハ右ニ述フル處ノ脈ニ從テ此圍地ノ中央ヲ流過セシ者ナリシニ已ニ所言ノ如ク八百七十年貞觀十二年庚寅ニ已ニ他ノ脈ヲ取レリ而シテ崩壞ノ前ハ久シク隄ヲ以テ之ヲ防キ轉シテ内河ト爲セシ也

「ソイドホルランドセワールド」ノ崩壞ハ或人ニ據レハ「ウエルケンダム」ニ當リ「メルウェーデ」ニテ「オウデンウイール」ニ發リシトス「スミッツ」ニ據レハ下ノ方即海邊ヨリ發レリトス恐ラクハ此圍地ニ接スル濶大ナル海灣内ノ水西又西北ノ風ニ驅逐激動セラレ其躍浪ヲ受クル「ムールデイキ」隄ノ名ノ高サ之ニ堪ヘサリシモノナラン又圍地ハ鹽水即海水ニ浸サレタリトイフコト種々ノ書籍ニ見ヘタリ但シ是レ「スミッツ」ノ確定ナル理論ニ合ハス則「ドルドレクト」ノ上ニモ潮勢ノ爲メニ河流ヲ亢隆セシメシト雖只是レ河水ヲ支ヘシノミ其水鹹ヲ爲スノ理ナシトス

此禍難ニ由テ浸サルヽモノ七十二村其三十七村ハ悉ク亡滅シ以テ廣袤ノ地面變シテ虛海ト爲レリ「メルウェーデ」ニ沿フテ所築ノ隄ハ其

同時ノ頃或ハ其少シク後ニ崩壞セリ河流一タヒ如是近ク海ト相通セシヲ以テ漸々此路ヨリ吐出シ終ニ「オウデンウィール、ホーグキル」等ノ孔ヲ經テ海ニ歸スル者ト爲リ本河ノ「ドルドレクト」ニ沿フ「メルウェーデ」ニハ只微少ノ水ヲ存スルニ至リシコト是深キ穿鑿ヲ待タスシテ明ナリ

第四十五章　「ハン、ヘルセン」氏ニ據ルニ其頃「ワール」及ヒ「メルウェーデ」河ノ長サヲ「シケンケンシカンス」ヨリ算レハ以前ヨリ減セシコト三分ノ一ニ過キ尚且此新下口ニ著シク汐ノ低キヲ得タリ則「ホルラントセヂープ」ノ「ムールデイキ」ニハ日々ノ汐「アペ」ノ下ニ下ルコト〇、九〇「エル」ニ至リ而シテ「カラインホフ」氏ノ水勢經驗ニハ「ブリール」ニテ日々ノ汐〇、六七「エル」ニ及フト記シ又後ノ經驗ニハ「アペ」ノ下〇、七一トス「ムールデイキ」ノ所ハ「ハルヂンキスヘルド」ノ下二万「エル」ヲ隔チ「ブリール」ノ處ハ同所ヨリ五万八千五百「エル」ヲ隔ツルモノ也然レハ「ワール」河ノ速サ及ヒ其勢ハ「ヲーデルレイン」及ヒ夫ヨリ別レ來ル「イースセル」ニ代テ著シク增加セサルヲ得サリシ也

河流此呑却セラレタル「ソイドホルランドセワールド」ヲ經テ常ニ其路ヲ存シ只其一至小部本トノ「メルウェーデ」ニ沿フテ流レシト雖洪水以來形質著シク此ニ變化シ落來ル泥土ニ由テ此水溜ノ内ニ漸ク數多ノ島ヲ生シ方今ハ復タ多分牧場ト爲リ頁隄ヲ繞ラシ或ハ更ニ人ノ住スル者アルニ至レリ

河水ノ就テ流去リシ所ノ淵川ノ最タルモノハ「バッケルスキル」「ステ

ウル、ガット」大「ウェスト、キル」ナリ「ハルヂンキスヘルド」ニ對セル「オウテ、ウ井ール」ハ此淵川ノ總上ロタリ稍々下ノ方「ギスセンダム」ニ對シテ「ホーグ、キル」及ヒ「キックホルス、キル」ニ由テ尚「メルウェーデ」ノ水ノ一部ヲ放下セリ而シテ「キックホルス、キル」ハ更ニ「ペウン、ローウェルス、スロート」ト「ヘルスロート」トニ分レシナリ

第四十六章　千四百八十四年文明十六年甲辰　巳ニ「ゥール」河ノ勢「レイン」河ニ代テ增大セルコト頗分明ナリ而シテ此不幸ノ事發リテ後元來ノ河ノ水過半「ゴリンセム」ヨリ「ドルドレクト」ニ沿フテ「マース」ノ方ニ放下シ(「ハンヘルセン」ニ據レハ四分ノ三「ドルドレクト」ニ當テ「メルウェーテ」ノ水量極少ノ爲メニ其全ク乾涸スルヲ防クノ策ヲ考ヒシニ至ルマテ其間一期半ニ及ヘリ千五百八十一年天正九年辛巳　千五百八十二年同十年　同十「ドルドレクト」ノ長者等「オウデンウ井ール」ヲ抑塞スルコトヲ催セリ但シコレ非常ノ防ケアリ其後千七百二十八年及ヒ九年享保十三年戊申同十四年己酉　此事ヲ再興シ一部ハ落成ニ至レリ千七百三十六年ヨリ三十八年元文元年丙辰ヨリ同三年戊午　ニ至テ又其余ノ淵川ヲ悉ク塞カンコトヲ計リ其業モ亦大ニ進ム然ルニ其頃水ノ漲ルアリテ此業ヲ持續スル能ハス之ニ加フルニ此俄然ノ狹搾ニ由テ水ノ怒激スルヲ防クヘキカ爲メ復タ此築隄ノ一部ヲ取拂フヘキニ至レリ尚此ノ如キ閉塞ヲ一舉ニ遂ケントスレハ則水面ノ亢隆ヲ生シ「テール」ノ圍地「ヘーフヘール」ノ地面「アルバッス」ノ圍地ノ如キ許多ノ地面悉ク放水ノ便ヲ失フヘキヲ以テ川ヲ以前ノ狀ニ復セントスルノ大發起人モ亦自ラ此爲シカタキヲ察シ但徐々ニ淵川ヲ抑塞スルニ力ヲ盡スヘキコトヽ思ヒ

リ千八百零五年及ヒ六年（文化二年乙丑同三年丙寅）「カライインホフ」氏幷ニ「セ、ル、ブリュニンクス」氏ノ檢査ニ依テ更ニ復タ淵川ヲ抑塞シ「ベヲーデンメルウエーデ」ニ水ヲ多クシ流ヲ快フシテ「ドルドレクト」ノ方ニ航（ア）水（シ）ヲ改正センコトヲ企テタリ此抑塞ノ手段ハ某淵川ノ底ヲ理メ其兩濱ヲ狹メ而シテ流ヲ引ク處ノ「キリッペン」（前ニ出ツ）ヲ置クニ在リ之ニ由テ兼テ「オウデンウ井ール」ノ下ノ「ベヲーデンメルウ井ーデ」ニ在ル澪ミヲ貫キテ深キ窄溝ヲ堀浚ヒリ此仕業ハ頗深慮ヲ以テ之ヲ企全ク落成ニ至方今尚存在スル處ナリ是苟シクモ上流ノ壅塞ニ於テハ後ニ至ルマテ能ク同狀ニ保存シ一部ハ後ニ置ク處ノ閉塞ノ基ヲ爲セシナリ（放水ノ穿鑿役）ノ書「イー、ブランケンヤンス」ノ書ニ在ル圖「オツペルレイン」『マース』兩河ノ放流ノ論千八百三十七年（天保七年丙申）「ヘウスデン」及ヒ「アルテナ」ノ地ノ新圖「インヂニュール、ア、デ、ゲウス」著ス處）

第四十七章　南和蘭圍地（ソイドホルランドセワール）ノ崩壞ノ大變事ニ因テ「ワール」河ノ速サ幷ニ其勢ノ大增加ハ他無シ只始終「レイン、イースセル」兩河ニ害ヲ加フルノミ之ニ由テ尚「レイン」河ノ上口「ワール」河ト分ル、所ノ方向ヲ傷ヒルコト是昔時河流ノ圖殊ニ「パスサフアント」氏ノ圖千六百九十六年（元祿九年丙子）ノ記ニ係ルモノニ詳ナル處ナリ「ヲーデルレイン」及ヒ「イースセル」ノ口ニ砂土ノ堆積セルハ自然此事故ニ因ルナリ「パスサフアント」ノ書記ヲ誦スレハ其堆積ノ多寡如何ヲ知ルニ足ル則千六百七十一年（寛文十一年辛亥）ヨリ千六百九十一年（元祿四年辛未）ニ至ルマテ「ヲーデルレイン」ノ口ニ砂土ノ堆積スルコト凡一「フート」半即〇、四六「エ

ル」ナリトス又歴史ニハ千六百七十二年寛文十二年壬子佛蘭西ノ軍勢「トルホイス」ノ邊ニ容易ク「レイン」河ヲ渡リ而シテ「イースセル」河ヲ徒渉セシト記シ且千六百九十二年元禄五年壬申ニハ人能ク「シケンケンシカンス」ノ邊ニ「レイン」河ノ所々ヲ徒渉セシト見ヘタリ

「レイン、イースセル」兩河ノ口ハ平日水ノ低キトキニハ全ク乾涸シ只水ノ高キトキニ方テ一二ノ船ヲ通スルヲ得タルノミ「ハスサファント」氏ノ記事ニ曰ク千六百九十六年元禄九年丙子ノ夏「ワール」河ハ「ボーヘンレイン」ヨリ來ル水ヲ「ヂーデルレイン」ニ分與スルノ量僅ニ二十四分ノ一ニ過キス餘ハ其深口及ヒ急流ヲ以テ呑却セリト又此記事ノ附録ニ千六百八十六年貞享三年丙寅「ヂーメヘン」ニテ「ワール」河ノ水面ハ「アルンヘム」邊ノ「レイン」河ノ水ヨリ高キコト四「フート」九「ドイム」(一、五〇「エル」)ニ居リ而シテ千六百九十八年元禄十一年戊寅ニハ五「フート」八「ドイム」(一、七八「エル」)ニ至レリトイフ

第四十八章　是故ニ通船并ニ水或氷ヲ正シク放下スルノ大事ニ就テ斷然タル手段ヲ施スヲ要セリ則「シケンケンシカンス」ノ上ノ「スペイキ」ヲ越シテ割斷シ以テ「ヂーデルレイン」ヲシテ頗良好ノ口ヲ得セシメンコトヲ企シ者ナリ是亦右ニ擧ル「インヂニウル、バスサファント」ノ記事ニ見ヘタリ其割斷ノ方向ハ凡ソ圖面(第一板第七圖)ニ示スカコトシ此溝渠ハ新「レイン」ロト爲ルヘカリシ者ニシテ其長サ二千二百五十「エル」ニ及フヘシ而シテ其地場頗適應良好ナルヲ以テ事ノ爰ニ及ヒシナリ但シ如是スルトキハ其分點「ブロイス」ノ境域ニ入リ和蘭ノ領外ニ出ントス是其事ノ行レサリシ因ナヨン此外「パス

サファント」氏ハ「イースセル」河ニ新口ヲ掘ルコトヲ企テタリ是凡後年ニ設クル處ノ如ク又同圖ニ見ルニヨロシ

第四十九章　此企ハ皆成就セスト雖僅ニ後年ニ至リテ同氏又他ノ企ヲ爲セリ是「パンヲルデン」ノ近傍「ステルレシカンス」ヨリ「カンヂヤ」マテ溝渠ヲ掘リテ尚下ノ方ニ「ベヲーデンレイン」ノ新口ヲ設ケントセシ也

此溝渠ハ所謂「パンヲルデンセカナール」ト唱フル者ニシテ其堀開ハ千七百〇一年元祿十四年辛巳ニ始マリテ千七百〇九年寶永六年己丑ニ落成セリ其廣サ只四十五「エル」其深サ地場（マーイヘルド）ノ下三、一四「エル」ナリ初メハ之ヲ以テ「ベヲーデンレイン」ヲシテ十分ノ流ヲ得セシメントセシニハアラス但シ元是要害ノ溝渠ナリ則「ワール」ト「ヲーデルレイン」トノ間ノ岬ヲ「パンヲルデン」ノ高ミニ狹ミ而シテ東境ノ擁護ト爲ル可カリシ者ナリ益シ涸却セル「レイン」河ハ之ニ協ハサリシニ由ル然レハ此溝水ヲ引クノ主意ニアラストイヘトモ之ヲ用テ「レイン」河ニ水ヲ引クノ大渴望ニ充ツルニ至レリ初メ之ヲ設クルトキニ方テ直ニ爰ニ新「レイン」口ヲ開クノ考アリシトキハ恐ラクハ其方向ヲ尚正直ニ爲スヘク左右ノ隄防ヲモ遥ニ水濱ヲ隔テヽ築クヘカリシナラン是方今ハ過半缺隄（レカールデーキ）ト爲リ大ニ保護ヲ要ス而シテ水ノ高キトキニハ其容積充分ナラス則水ノ高キニ方テ其速力ノ頗増大スルヲ以テ明ナリ（次篇ヲ見ルヘシ）然ルニ此溝渠千七百〇七年寶永四年丁亥十一月實効ヲ得許多ノ水ヲ引ケリ但シ其位置「ワール」河ヨリ水ヲ收ムルニ適應ナルニ因レリ此ニ於テ「レイン」ノ古口ハ次第ニ涸レ千七百〇九年寶永六年己丑後

ハ「パンヲルデン」ノ溝渠本河ト爲リ古口ノ水ヲ送ルハ只水ノ高キトキニ在テノミ而シテ上流ノ方向モ亦全ク變化セルコト古圖ニ由テ分明ナリ則千七百十九年享保四年己亥ニ至テ「ワール」河ハ已ニ「シケンケンシカンス」ノ北ヲ流レタリ而シテ上ニ引ク處ノ「ハスサファント」氏ノ圖ニハ此「シカンス」ヲ「レイン」ト「ワール」トノ間ニ在リ（第一板第七圖ヲ見ルヘシ）

第五十章　千七百四十年元文五年庚申ノ頃マテハ「パンヲルデン」溝即新「レイン」口能ク目的ニ協ヘリト雖其後殊ニ千七百四十年「スベイキ」ノ隄防破敗ノ後其「プロイセン」ニ係リテ深ク意トセサルノ故ヲ以テ捨テ塡塞セサリシニ由リ千七百四十四年延享元年甲子甚シク增大シ河ノ狀復タ頗大變化ヲ受タリ此時ニ方テ「ボーヘンレイン」ハ此捷路ニ就キ三十年前「パスサファント」氏ノ企タリシ割斷ノ方向ニ近似シテ復タ其舊床ニ落チ而シテ「パンヲルデン」ノ溝渠ノ下ニテ劇シク「ヲーデルレイン」ニ吐出シ冬毎ニ荒亡ノ害ヲ卑低ノ地ニ加ヒ「ホルランド」及ヒ「ウトレクト」地方ニモ亦勿論恐怖ヲ懷シニ至レリ

第五十一章　是故ニ千七百四十五年延享二年乙丑「ゲルデルランド、ホルランド、ウレクト、オーフルイスセル」ノ各境之ヲ復スルニ須要ノ策ヲ設ケ常ニ「ワール」ノ口ト「パンヲルデン」溝トノ分水ヲ均同ニシ兩河ヲシテ共ニ放水ノ事及ヒ通船ノ要ニ協ハシメンコトヲ約定セリ此盟約ニ方テ「スベーキ」ノ隄ノ修覆及ヒ保護ノ爲メニ「ワール」ト「ヲーデルレイン」トニ其高水ヲ分ツコト千七百四十年ニ至マテ二十年間ノ經歷ニテ良トセシ如キ狀ニ至ラシムルヲ決定シ并ニ平水及ヒ

低水ヲ分ツヘキノ設ヲ爲シ且「パンヲルデン」溝ノ濶サ及ヒ深サヲ千七百四十五年（延享二年乙丑）前ノ如クニ保ツヘキコトニ決セリ其餘千七百四十九年（寛延二年己巳）ニ右ノ溝渠ヲ抑塞スルカ爲メ「パンヲルデン」ノ圍地則方今ノ分點ノ下ニ隄ヲ築キ分水ヲ適度ナラシムヘキ一二ノ「キリップウェルク」（石又ハ木材ヲ以テ水ノ方向ヲ制スル者）ヲ搆ユルコトニ決定セリ此隄ヲ「ソルグデイキ」ト稱ス

然レトモ新ニ難事ノ生スルアリテ長シ此改正ニ從事スル能ハサリシ也則「ワール」河ハ「ビムメン」ニ對シテ次第ニ其曲折ヲ增加シ其右濱隄ノ下ヲ掘穿ツニ至レリ助隄ヲ置キ「キリップ」（水ノ方向ヲ制シ岸ヲ碎クヲ防ク等ノ設）及ヒ「ブレースウェルク」（同上ノ類）ヲ以テ此足ヲ防禦スルコト數回ニ及フト雖更ニ寸効ナク此防工全ク陷沒シ一兩年ノ內此所ニ驚クヘキ變化ヲ生セリ

第五十二章　千六百九十六年（元祿九年丙子）ニハ「ヘルウェン」ノ寺ノ在ル處ハ「ワール」河ノ濱ヲ去ルコト凡「レインランド」ノ二百五十「ルーデ」即九百四十二「ヱル」ナリシニ千七百四十四年（延享元年甲子）ニハ百八十「ルーデ」即六百七十八「ヱル」千七百五十一年（寶曆元年辛未）ニハ六十「ルーデ」即二百二十六「ヱル」千七百六十二年（寶曆十二年壬午）ニハ只二十「ルーデ」即七十五「ヱル」千七百六十四年（明和元年甲申）ニハ其寺ノ在リシ處ノ地呑却セラレ千七百六十六年（明和三年丙戌）ニハ其地已ニ河岸ヨリ四十「ルーデ」即百五十一「ヱル」ニ及ヘリ

此時ニ方テ「ヘルウェン、フールッ、パンヲルデン」三村ノ圍地ハ排開セラレ水之ヲ通リ又ハ「ガラーヘン」ノ圍地（ワールド）ノ低隄ヲ越ヘテ自由ニ

此内ニ入リ此圍地ノ下邊ニ至リ内ヨリ外ノ方ニ堤ヲ越ヘテ「子ーテルレイン」ニ落チシナリ之ニ由テ「子ーデルレイン」及ヒ「レイキ」兩河ハ冬間水ニ壓セラルヽコト太シク「ホルランド及ヒ「ウトレクト」ノ地方ニハ驚恐魂ヲ消スルニ至レリ之ニ由テ「パン子ルデン」ノ溝渠ハ過半廢物ニ歸シ砂土ノ堆積ヲ催シ通船ニ恊ヒ難キニ及ハントス

「イースセル」河口ハ千六百九十六年（元禄九年丙子）已ニ砂ヲ置キ只河水ノ高キトキニ方テ水之ニ流レ而シテ敢テ改正ヲ得サリシヨト上ニ述フルカ如シ

第五十三章　河流漲溢ノ危嶮并ニ通船ノ成否ニ就テ始終不安ノ狀勢ヲ加フルニ由リ聊防備ノ術策無ク空シク會議評論ニ渡ルコト殆ト爰ニ二十二年千七百七十一年（明和八年辛卯）ニ至リ終ニ和蘭ノ治水術家「ブリュニングス」ノ鋭勵ナル助力精藝工夫ニ依テ「ゲルデルランド、ホルランド、フロイセン」ノ各境盟約ヲ爲シ以テ和蘭ノ上河ニ重大ノ業ヲ施スコトニ定メ其後「ブリュニングス」ノ指揮ヲ以テ之ヲ成就シ頗ル望ニ應スルヲ得タリ

第五十四章　此業ハ則水漲ル毎ニ非常ニ「子ーデルレイン」及ヒ「イースセル」河ニ溢ルヽ處ノ過度ノ水ヲ除キ又彼是ノ川流ニ平均ノ分水ヲ得以テ氾濫ノ危害ヲ減シ通船ノ便利ヲ興スニ足ルヘカリシ者ナリ其主重ノ件々ハ則左ノ如シ

第一ハ高キ上流三村ノ圍地及ヒ「ガラーヘン」ノ圍地ヲ越ヘテ左右ニ流過スルヲ塞クニ在リ但シ是盟約後直ニ已ニ手ヲ下セル處ニシテ千七百七十一年二年（明和八年辛卯安永元年壬辰）ニ成就セリ是業ハ「ヘルウェン」ニ隄

ヲ築キ「コロイスデイキ」堤ノ名十字形ヲ爲ス者ヲ攜ヒ「ボートルデイキ」堤ノ名ヲ「オスセン」ノ圍地ノ堤ニ接着シ又右ニ所載ノ堤ヲ大ニ爲シテ大堤ノ高サニ至ラシムルモノナリ

第二ハ「ペイランド」ノ溝渠ヲ以テ「ヘルウェン」ニテ河ノ曲折ヲ割斷スルノ大業ナリ是レ河ヲシテ此ニ短捷ノ路長好ノ方向ヲ得セシムルニ供スル處ニシテ河流之ニ由テ短縮スルコト六千「ヱル」ヨリ二千二百六十「ヱル」ニ至レリ

此溝渠ノ堀割ハ千七百七十三年四年安永二年同三年ニ成リ千七百七十五年安永四年乙未ニ之ヲ開キ千七百七十六年安永五年丙申ニハ已ニ「アルンヘム」ノ測標ニテ十七「フート」五「ドイム」ノ水位ニ至リ大ナル「ケウレナール」舟名ノヲ以テ之ニ航セリ此堀割ハ長サ千九百「ヱル」余堀開ニ方テ其廣サ地面ニハ百四十三「ヱル」底ニハ百十七「ヱル」ト爲シ其深サハ地面ヨリ下二、五二「ヱル」而シテ一、五七「ヱル」ヲ以テ「アルンヘム」ノ測標ニ合セリ其餘流勢ヲ增加セルコト殊ニ千七百七十五年六年ノ冬古「ワール」河及ヒ溝渠ニ冰ノ塞カリシ頃溝渠ノ氷ヲ解キテ水ノ流下ヲ促セシニアリ則春ニ入テ深サヲ測ルニ「アルンヘム」ノ測標ノ零點下一、七〇「ヱル」ニ至レリ然レハ始メノ深サヨリ三、二七「ヱル」ヲ增セリ又其廣サモ增加セリト雖但シ深サノ比ニアラス其頃平均ノ廣サ凡百八十「ヱル」其後漸ク增加シテ四百「ヱル」余ニ至レリ」第三ハ「ブレイ」ノ堀割ナリ是「イースセル」河ニ船ヲ通シ且分レ來ル水ヲ能ク吸取スル適應ノ新口ヲ得セシムヘキモノニシテ共ニ千七百七十三年四年安永二年三年ニ成ル處ナリ「イースセル」ノ古口ハ千七百七十五年安永四年六

月十二日ニ「レイデイキ」ヲ左濱ニ置キテ全ク之ヲ壅塞シ而後新口ヲ堀リテ十分ノ深サニナシ終ニ九月二十三日ニ之ヲ開ケリ故ニ「イースセル」河ハ全ク壅閉スル三箇月余是川位亢隆(「アルンヘム」ノ標四「ェル」)ノ故ニ困難無キニアラス而シテ「アルンヘム」ニテ〇、〇六「ェル」ノ亢隆ヲ起セルコト「アルンヘム」「ヲーメヘン」兩所ノ比較ニ由テ明ナル如シ

此堀割ハ其廣サ地面ニテ一一三、「ェル」其深キ「アルンヘム」ノ標一、二六「ェル」ノ底ニ至レリ故ニ「ベーランド」ノ溝ト同シク尚大勢ヲ有シ以テ浚削散曼モ亦大ナラサリシ也

第四ハ「レイン」古口ノ狹搾ナリ是細溝ヲ貫キテ「レイスベルム」(築堤ノ物名)ヲ築キ其高サ「アルンヘム」標四、〇八「ェル」ノ高サニ爲シ以テ其頃「テイクスホーフド」(堤防ノ部名)ノ間ニ在ルノ孔三三九、「ェル」ノ者ヲ悉ク高カラヌ標ニマテ築揚ク可キノ企ナリ乃チ細溝ハ其頃廣サ纔ニ四九、「ェル」ニシテ兩岸ノ地場頗ル高カリシモノナリ

水及ヒ氷ノ夥シク流レ落ツルニ由テ此地場漸ク損傷スルコト甚シク千八百年(寛政十二年庚申)ニハ「ケレーフ」及ヒ「ヲーデルランド」ノ支配相議シテ全孔ニ「レースベルム」ヲ搆ヒ「アルンヘム」標五、「ェル」ノ高サニ至ラシメ但シ四、〇八「ェル」ノ高サニ四九「ェル」ノ廣サノ溢堤ヲ存スルコトヲ計ルニ至レリ然レトモ千八百十六年(文化十三年丙子)ニ至テ全孔長サ三三九、「ェル」皆四、〇八「ェル」ヨリ高キ標ニ築揚クル能ハサルコトニ決セリ

「レイン」古口ノ溢隄ハ元ト千八百十六年ニ所議ノ如クニハ成就セサ

リシニ千八百四十年天保十一年庚子「ブロイセン」ノ斷然タル勸メニ由テ其全長ヲ所望ノ高サニ至ラシメタリ之ニ由テ全ク新ナル溢隄ヲ纔ニ外ノ方ニ築キ隘隄ノ上下ノ地ヲ平等ニ爲セリ

「レイン」古口ノ溢隄ハ其高サ下ノ地場ヨリ上一「エル」乃至一、五「エル」ニ至リ一ニ二〇ノ勾配ヲ以テ其深サニ降リ「レイスベスヲフ」被服具ノ名ヲ以テ之ヲ覆ヒ水之ヲ越ヘテ流レ古「レイン」ニ沿ヒ「カンデヤ」ニテ「子ーデルレイン」ニ落ツ此溢隄ハ今尚右ノ形狀ヲ存ス其存在ハ是「ブリュニングス」氏及ヒ今代ノ治水家モ共ニ「子ーデルランド」ノ河川ニ整等ナル分水ヲ保タシムルニ害アリトス而シテ其保存ニ關スルコトハ只「ケレーフ」ノ地面ノ爲メニ在リ又此「レイン」河ヲシテ和蘭ノ地ヲ經テ北セシムル放水ハ只「ヂュッヘルト」ニ在ル「ケレーフ」或ハ「プロイス」ノ地面ヲ防護スルノ用ヲ爲スノミ

第五ハ「パン子ルデン」溝ノ全キ新口ヲ設クルニアリ是古口ヲ築塞キ「パン子ルデン」溝ト「ワールト」ノ別ルヽ處（當今ノ分點ニ士隄ヲ長フシテ且之ヲ高フシ兩川區ニ通船ヲ能クシ整等ノ分水ヲ得ルニ協フ處ナリ（千七百八十一年八十二年天明元年同二年）

第六ハ自餘「キリップウュルク」及ヒ「ブレースウェルク」共ニ築造ノ物名ヲ之ニ置クニ在リ是自然ノ力及ヒ築物ノ敗壞ニ從ヒ漸ク流ヲ導キ水濱ヲ擁スルニ緊要トセシ處ナリ

第五十五章　其時ヨリ以來河ノ流レ曾テ變化アラス其方向及ヒ分水ハ充分同狀ニ居レリ蓋シ世人ハ河床及ヒ川位兩ナカラ隆亢シテ河域ノ樣常ニ危嶮ヲ加フルト思フカ故ニ衆皆累年大變化アリト泥メリ

前代水勢ノ監事「グーコープ」氏㊗ノ册子中千七百七十二年ヨリ千八百四十年ニ至ルマテ（安永元年ヨリ天保十一年マテ）六十九年ノ間日々ノ經驗ヨリ十年ノ時期ニ分ツテ平均ヲ出セリ即チ年間ノ日々幷ニ夏季六箇月ノ日數ヲ別ニ爲セル者ナリ之ニ由テ高サノ增加明カナルハ只「ワール」河ノ「テール」及ヒ「ボムメル」「イースセル」河ノ「ヴースヒュルグ」「スユッテン」「デヘントル」ニ過キサルノミ

㊗千七百七十二年ヨリ千八百四十年ニ至ルノ時間和蘭河流ノ水面及ヒ床底亢隆有無ノ撿査「アルンヘム」ノ千八百四十四年「ア、グーコープ」所著

「ゲルデルラント」ノ故「ホーフド、インヂニヴル」「フ、ベイリンク」氏及ヒ監事「フェルランド」氏ノ如キ他ノ治水家ノ論ハ「フェルランド」氏「イースセル」河ノ考案中ニ云フ處ヨリ明カナル如ク水位ノ高サハ增加スルモノトスレトモ是「グーコープ」氏ノ如ク纔ニ底ノ亢隆ニ歸ス但シ此增加ハ「レイン」河ノ減短ニ由テ流加ノ速サノ加ハル故トス「レイン」河ノ減短ハ「バセル」ト「マンヘーム」トノ間ニテ千八百二十六年（文政九年）ニ已ニ多分十八時半程ニ至リ而後其減短尚其餘ニ進ミ方今ハ三十乃至四十時程ヲ以テ算ルニ至レリ思フニ艸木ヲ多ク伐開クハ又大ニ迅速ノ流加ヲ促セシ者ナラン

開闢ノ河ニ在テ水位ノ高キ增加セルコトノ分明ナルハ是後年ノ發明ナリ千八百七年ノ位置ハ千八百十九年二十年ノ冬ニ至テ頗亢隆シ千八百二十四年二十五年ノ位置ハ更ニ千八百十九年二十年ノ者ニ越ヘ千八百四十五年ニ至テハ更ニ又千八百二十四年ノ高ニ過タリ概チ水

位ノ増加ハ切斷ヲ以テ水路ヲ短捷ニスルニ歸スルノ外森林ノ伐開ニ在リ佛蘭西ノ「インヂニヴル、エン、チーフ」「ワルンス」氏ハ此說ヲ非トシ且反對ノコトヲ主張ス蓋シ其意ニ據レハ艸木ヲ伐拂ヒ其地ヲ耕セハ其地多ク水ヲ吸フヲ以テ流加減少ノ因トナルトシ又同氏佛蘭西ノ河流ノ經撿ヲ以テ已レノ說ヲ確定ス即チ「サオーン」河ヲ除クノ外水位ノ高サ後年ニ至テ減却シ就中「セーン」河ノ水位ハ「パリス」ニテ千六百年ヨリ千八百五十年ニ至ルマテノ所驗ニ據ルニ其減却八、三四「ヱル」ヨリ六、四七「ヱル」ニ至レリ而シテ此減却ハ「セーン」河ノ流域ニ在ル森林ヲ伐拂テ「パリス」ノ焚料ニ供スルニ因ルトス

又一ニハ森林多キ地ニハ雨ノ降ルコト不毛ノ地ヨリモ少キハ彼是ノ地方ニテ施セル經撿ニ由テ分明ナリ

治水學主河篇第二終